令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 つばさ 小学校 ）　　学校番号　１０２

【様式】

目指す学校像	◆子どもたちが生き生きと輝く学校　◆教職員と保護者・地域がチームとなる学校 ◆地域とともに発展する学校　◆職員みんなが力を発揮する学校

重点目標	１　教育ＤＸ(デジタルトランスフォーメーション)で実現させる学びの自律と個別最適化、探究化 ２　一人ひとりの多様な幸せ(Well-being)を実現する未来の教育の実現 ３　地域の高い教育力を生かしたコミュニティ・スクールの推進 ４　子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の充実

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和７年２月５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○日頃の学習の様子から、学級には、様々な特性をもつ児童がいることから、学習指導上、誰一人取り残すことなく、きめ細かな指導が必要である。 〈課題〉 ○学級には、【浅い】理解から【深い】理解までの多様な児童がいる中で、特に習熟の差が生じやすい教科等において、個別最適な学びの実現に課題がある。 ○習得・活用の「活用」場面で、協働学習から学習の有用性を実感させ、学習意欲を向上させる必要がある。	・誰一人取り残さない多様な子どもの学びの充実	①「焦点化・視覚化・共有化」の視点から授業改善を行う。 ②ドリルパークなどのＩＣＴ教材を活用する。 ③学習活動の基盤となる読解力をはぐくむため、読書活動を推進する。	①「授業が分かりやすい」と回答する児童の割合が９５%以上となったか。 ②ドリルパーク等、ＩＣＴを効果的に用いて学習指導が行えたか。 ③学校図書館での貸し出し冊数データを分析し、児童が日常的に読書に親しめたか。	①「授業の内容がよく分かる」、児童の肯定的回答９３．０％ ②「児童の学びの自立化・探究化に向けて、端末を活用した授業改善」教員の肯定的回答９７．０％ ③１・２学期の貸し出し冊数、全学年で１８，４５８冊（１人約21.3冊、１月2.4冊） 絵本作家を招聘したオーサービジット実現	A	・「授業の内容がよく分からない」と回答している児童に注目し、誰一人取り残さない学習指導の改善が必要 ●発見学習に加え、教えて考えさせる授業等、他の指導方法の研修を年度当初に行い、授業改善を日常的に積み重ねていく。 ●読解力の向上に向けた読書等の取組	●大学入試でも、かなりの長文であり、状況を理解する読解力が求められる。つばさの子には、人間同士の「生の会話」を大切にして欲しい。 ●最近は、対人の会話が短文である。Ｒ９年度から県立高校入試で、全員、面接試験が実施される。コミュニケーション力の育成が大切であろう。 ●ＩＣＴ礼賛ばかりでなく、小学生段階だからこそ、アナログの良さにも着目して、発達の段階に合わせて進めるとよい。 ●ＩＣＴの功罪も含め、目標立てと方策を検討していってほしい。
		・学びの自律化・探究化に向けた情報端末の活用、授業改善	①１人１台端末を効果的に活用した授業を日常的に実践する。 ②「学びのポイント」（じしゃく）を活用した授業改善に取り組み、「探究的な学び」を実現する。 ③２年計画で大学から指導者を招聘し、指導を受けると共に、校長自ら先進的な事例を学び、教職員へ指導助言を行う	①１人１台端末を効果的に活用した授業が日常的に実践できたか。 ②教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０%以上となったか。 ③日常の授業の様子、子どもの学びの具体の姿から、変容が見取れるようになったか。	①「端末を授業で効果的に活用」は、教員の肯定的回答５８．３％ ②「学びのポイント」を活用した授業改善は、教員の肯定的回答５５．６％ ③市学調結果は今後であるが、全国学調では、令和６年度とても良好な結果である。 【深い】理解の姿である「仲間に分かりやすく説明できる姿」を目指す必要がある。 元文科省学力調査官から直接指導の実現	B	・１人１台端末の活用に係る、教員と児童のスキル及びリテラシーの向上 ●学校課題研修【１人１台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を視点とした授業改善】の継続・深化 ＊市教委指導主事を招聘した研修 ＊先進事例の収集・検討 ＊teams を活用した情報交換	
2	〈現状〉 ○不登校や不登校傾向の児童、様々な特性をもつ児童、様々な配慮を要する児童など、多様化している。 ○我が国の子どもに、エイジェンシーの育成が求められている。 〈課題〉 ○様々なストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○児童が他者と協働して、自分の考えや行動で、自身の生活や学校を少しでも変えようと行動する力(エイジェンシー)を育成することに課題がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①生徒指導委員会等において子どもの様子を全職員で共有し、ケース会議等組織的な対応の充実により、個に応じたきめ細やかな支援を行う。 ②子どもにとって学校の一番の居場所は「担任の懐」であることを肝に銘じ、教育愛溢れる人間教育を実践する。	①情報共有・共通理解を図った子どもについて、生徒指導主任・教育相談主任・特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰが中心となり、担任のみに抱え込ませず、組織的な支援が日常的に実践できたか。 ②児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０%以上となったか。	①担任のみに抱え込ませず、外部の実践的・専門的識見の高い指導者を招聘、組織で対応を検討し、全職員で支えた。 「職場に協働し合う体制があるか」市平均をプラス４．５５ポイント 不登校児童数の減 ②「学校は充実して楽しい」児童の肯定的回答９５．０％、保護者の肯定的回答９３．０％　特別支援学級の諸活動の充実深化	A	・様々な特性をもつ児童、配慮を要する児童へのよりよい効果的な支援の在り方を日常的に探る ●組織的な支援をさらに充実深化させるため、簡易なケース会議の日常化。 ＊会議室での着座での形式ではない、職員室で関係職員が瞬時に集合し、立ったまま・短時間での効率的会議	●現在、様々な家庭環境・多様な児童が混在する中、つばさ小は全般的にたいへん生き生きと子どもたちが活動している。子どものためであればと頑張る教師の献身的な努力に感謝する。 ●エイジェンシーといった面で考察すると、運動会・卒業式等、物おじせず発言する子どもたちの姿に深く感心する。一方で、情報があふれる社会を生き抜く上で、正しいのか・フェイクなのか見極め正しく判断する力をはぐくめるよう大人の役割が大切であろう。
		・エイジェンシーを育成する特別活動等の充実	①自分たちの学校生活を見つめ直し、潤いある豊かな学校を自分たちの手で実現させていく自治的活動を行う。 ②日進七夕まつりへの取組を教師主導から子ども主体の活動に転換していく。	①子どもが学校生活の改善・充実に向けた自主的・実践的な活動に取り組む姿が見られたか。 ②子どもの言葉で、「つばさらしさ」「つばさ小の良さ」が語れる姿がみられるようになったか。	①②児童会を中心として、各委員会活動においても、少しずつ、豊かな学校の実現に向けた子どもの発案による活動が見られた。 日進七夕まつりへの取組は、教師主導から、児童会を通した活動へと転換ができた。「集会で号令がかからなくとも、自然とおじぎができる姿は、つばさらしさである」ことを誇りにもち、広まってほしい。	B	・自分たちの学校生活を見つめ直し、潤いある豊かな学校を自分たちの手で実現させていく自治的活動の深化 ●つばさ小の校風を全職員で創造する気概・矜持の醸成を図る。 ●子どもの心に火を灯す肯定的な言葉がけを全職員・保護者・地域で、シャワーのように降り注ぐ。	
3	〈現状〉 ○登下校の見守り活動や、チャレンジスクール等の学校支援活動など、自治会・育成会・ＰＴＡを中心としたスクールサポートネットワークからの支援を得ながら、地域学校協働活動が充実している。 〈課題〉 ○つばさ小学校の子どもたちに「付けたい力」を、全児童・保護者・地域と共有し、さらに、実現に向けた具体的行動を起こす。	・保護者・地域との連携、協働による「付けたい力」を育成する教育活動の展開	①「付けたい力」「保護者・地域の役割と具体的な取組」を、全児童・保護者・地域と確実に共有する。さらに、活動推進のため、学校ＨＰ「コミスクのページ」を充実・深化させる。 ②学校運営協議会に児童が参画する場を設け、大人と共に協議し取組を行う。	①学校ＨＰ「コミスクのページ」や、「学校だより」等を通じて、取組状況が周知され、保護者・地域の日常的な取組に生かされたか。 ②「子どもが主役」となるコミュニティ・スクールの在り方に迫ることができたか。	①学校ＨＰ「コミスクのページ」に「つばさ小バーパス・バリュー」を掲載し、学校だよりで周知を図り、「付けたい力」の取組を共有・働きかけを行った。 ②学校運営委員会に児童代表が参画し、「どんなつばさ小を築いていくか」「どんな取組を行うか」について意見交換を行った。	B	・コミュニティ・スクールとして、学校の裁量権が拡大したことから「より多くの自主的な取組」が求められている。その具体化に課題。 ●学校・家庭・地域が一体となった魅力ある学校づくりへの参画について、具体的に検討、実践していく。	●今後、自治会やＰＴＡの在り方が、時代と共に変化してくると思われるが、最も大切なことは、「ほかの家の子どもの成長を楽しみにできる」心の在り様であろう。 ●地域が学校へ・子どもが地域へと２つの軸で整理し、学校・地域のプラスへつなげるとよい。 ●学校運営協議会で児童代表が発言した「あいさつ」「いじめ防止」の具体的方策を大人と共に具体化して反映できるとよい。
		・故郷を愛し、未来の地域社会の担い手となる子どもの育成に向けた取組の充実	①地域人材や地域の文化・学習材など、児童の故郷に係る教育活動を教育課程に位置付け、２１世紀型スキルを育成する。 ②校長自身が地域を愛し、地域から学び、子どもたちへ発信していく。	①４月末日に市教委へ提出した本年度の教育課程を改善・充実させていくことができたか。 ②校長が地域とのコミュニケーションを大切にし、地域から学んだことをつばさ小の子どもたちに還元できたか。	①これまで途絶えていた「１年生生活科昔遊びにおける地域の方を招いての学習活動」と「地域の方を招いての交流給食」を復活することができた。 ②「逆川」「つばさ小暗渠の存在」等、地域から学んだことを子どもたちへ還元した。	A	・未来の地域社会の担い手となる子どもの育成の充実。 ●さいたま市発祥のさつまいも「紅赤」を守る会と連携し、特別支援学級・Ｓola るーむ等、学習活動を充実させ、全校児童に成果を広める。	
4	〈現状〉 ○新たな学びのスタイルの中心となる、１人１台端末をはじめとしたＩＣＴの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができている。 〈課題〉 ○１人１台端末の効果的な活用について、定期的に情報交換を行い、学級差を生じさせない取組が必要である。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に課題がある。	・学校職員一人ひとりが力を発揮し、子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の実施	①全ての教員が授業改善に取り組み、学期に１回以上、授業を公開する。 ②１人１台端末を効果的に活用する指導方法について、定期的に全職員で学ぶ。 ③「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」を適切に行い、教職員の資質向上を図る。 ④令和７年「関東ブロック授業公開校」として、学校課題研修に全職員が一丸となり取り組んでいく。 ⑤「授業力ある伝統校」を築き上げていく士気を高める「パーパス」「バリュー」を、全職員が自らの胸に刻み、子どもたちの幸せを実現していく。	①全ての教員が１人１台端末を効果的に活用した【授業改善】に取り組み、学期に１回以上、授業を公開し、学習指導力の向上が図られたか。 ②１人１台端末を活用した指導について、teams を用いて日常的に情報交換ができたか。 ③校長自ら学び、先進的な情報を集め、学校内で共有を図るなどを通して、教職員の資質向上が図られたか。 ④１１月プレ校内大会で、一定の成果を挙げることができたか。 ⑤全職員がつばさ小を誇りに思い、自己研鑽への志をもち続けられたか。	①市教委訪問や、各種示範授業、学校課題研修での授業研究等、様々な機会を通し、互いに授業力を磨き合った。 ②teams を用い日常的な情報交換が行えた。 ③校長自ら週休日や夜間に行われた自主的研究会に参加し、得られた情報等について、職員集会を利用し、つばさ小職員への共有ができた。 ④関ブロ研究大会に向け、各学年で研究を積み上げることができた。 ⑤教職員の支え合う体制・埼玉県の代表としての関東甲信越地区ブロック研究大会への取組・Ｓola るーむなど先進的な取組等は、パイロット校的存在であり、「授業力ある伝統校」へ高めていく。	B	・子どもや教員自身が、自分の学校を誇りに思い、学校のブランド力・特色・自慢などを自分の言葉で語れるようになること。 ・パーパス実現に向けたバリューとして、自己研鑽・研修への志を全職員一人ひとりがもつこと。 ●自ら主体的に研修に取り組まなければ自己改善にはつながらないと考える。その実現のために「職場環境の改善」と「学校で働くことを志願した当初の夢を基に、つばさ小のパーパスの醸成」に取り組む。その具体的取組として、関東甲信越地区小学校理科研究大会に全職員で取組む。	●つばさ小には、それぞれの分野で強みや力のある教職員が在籍している。是非、定期的な勉強会を開催して、互いの力量を高め合い、「つばさ小に赴任すると、教職員の力がつく」といった伝統校となってほしい。 ●１０組の教育活動の充実等、つばさ小の素晴らしさ・良さを、公民館など地域からも発信していきたいと考える。